

情報満載の当社ホームページもご覧ください

<http://www.maruha.co.jp>

企業情報やIR情報に加え、レシピなどのお  
役立ちコンテンツも充実しています。  
ぜひアクセスしてみてください。



## 株 主 メ モ

決 算 期 日 3月31日  
定 時 株 主 総 会 6月  
上 記 基 準 日 3月31日  
その他必要あるときは、あらかじめ公告して臨時  
に基準日を定めます。

公 告 掲 載 新 聞 日本経済新聞  
名 義 書 換 手 数 料 無料  
名 義 書 換 代 理 人 東京都港区芝三丁目33番1号  
中央三井信託銀行株式会社

同 事 務 取 扱 所 東京都杉並区和泉二丁目8番4号(〒168-0063)  
(郵便物送付先) 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部  
(電話照会先) 電話 (03) 3323-7111 (代表)  
同 取 次 所 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店  
日本証券代行株式会社 本店・全国各支店

<お知らせ>

住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求および配当金振込指定等に必要  
な各用紙のご請求は、名義書換代理人の下記のフリーダイヤルおよびホーム  
ページにて24時間受け付けしております。

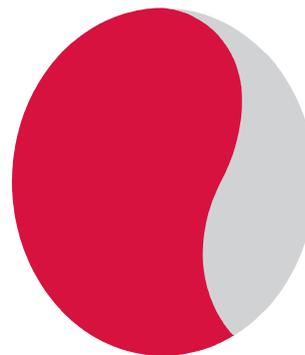
フリーダイヤル(自動応答) 0120-87-2031  
ホームページ [http://www.chuomitsui.co.jp/person/p\\_06.html](http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html)

(証券保管振替制度をご利用の方は、お取引口座のある証券会社等へご照会ください。)

## 株式会社マルハグループ本社

東京都千代田区大手町一丁目1番2号(〒100-0004)  
TEL.(03)3216-0821 FAX.(03)3216-0342

# MARUHA



# IR Report 2004

株式会社マルハグループ本社

証券コード：1334



取締役社長  
五十嵐 勇二

## 経営資源の選択と集中を推進し、競争力の強化をはかります。

みなさまには、平素よりわたくしどもマルハグループをお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。

株式会社マルハグループ本社は、株式移転によりマルハ株式会社の完全親会社として、2004年4月1日に発足したマルハグループの純粋持株会社です。

マルハグループがこうした持株会社を核とするグループ経営を選択した大きな理由は、経営と事業を分離することで、権限と責任を明確化し、ガバナンスを強化して、会社間のシナジー追求、会社群の柔軟な再編により、事業環境に的確かつ迅速に対応できる体制を作ることにあります。

株式会社マルハグループ本社は、経営戦略の立案等グループ経営に特化し、事業および経営資源の選択と集中をはかり、事業を有機的に結合させ、グループの全体最適化を実現することにより、国内外における生産性の向上ならびに競争力の強化をはかってまいります。

この経営体制のもと、マルハグループは引き続き、“健康・本物・簡便を旨とする『食』の提供により社会に貢献する”ことを経営理念として掲げてまいります。魚を中心に、お客さまへ「安心」「安全」をお届けするという企業グループとしての基本姿勢は不変であり、今後もつねに良質な食品やサービスにマルハグループならではの提案を添えて、お客さまに「驚き」と「感動」を提供できる企業グループ“フードワンダーランド・マルハ”であり続けます。

なにとぞこれまで以上のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

### CONTENTS

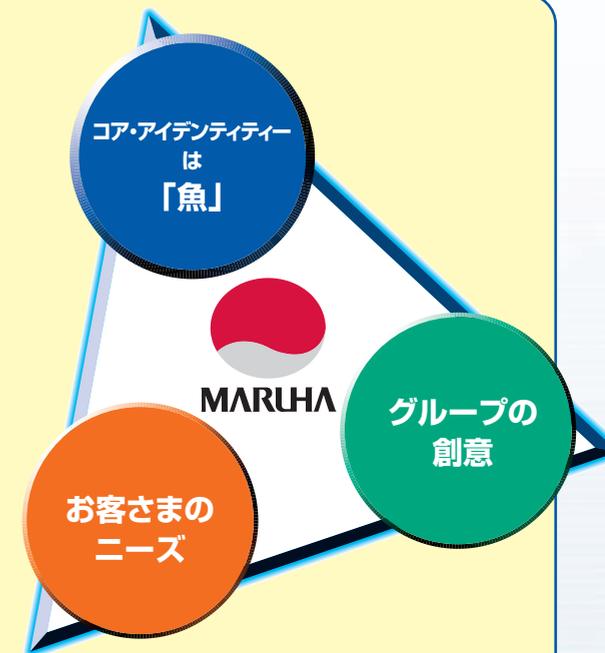
株主のみなさまへ	1
マルハグループビジョン	2
グループ価値の増大に向けて	3
〈株式会社マルハグループ本社〉の機能と体制について	4
MARUHA GROUP FILE	5
Focus/開発Story『骨までおいしい魚』	7
〈ご参考①〉マルハ株式会社/連結決算 HIGHLIGHTS	9
〈ご参考②〉マルハ株式会社/連結決算の概況	10
〈ご参考③〉マルハ株式会社/連結決算 財務諸表	11
〈ご参考④〉マルハ株式会社/単独決算 財務諸表	13
会社の概況/株式の状況	14

## マルハグループビジョン

### 「価値あるもの」をあらゆる食卓のシーンで提供する

マルハグループは魚介類という地球からの恵みを、漁業、養殖、買付、加工、保管・物流および販売といったステージを通じて世界の海からお客さまの食卓へお届きつづけてまいりました。

これからも、「魚」をコア・アイデンティティとして、トレーサビリティが明確で、高品質な食品・素材あるいはサービスを、お客さまのニーズに応えることはもちろん、魚と向かいあって一世紀を超えるマルハグループの創意を添えて、お客さまにとって「価値あるもの」をあらゆる食卓のシーンで豊富に提供してまいります。



グループビジョンの実現に向け、それぞれの分野での競争力強化および、さらなる発展をめざして

**2004年4月1日持株会社が発足しました。**

- グループ各社・各事業分野間のシナジーの追求
- 事業環境に的確かつ迅速に対応できる体制の構築

# グループ価値の増大に向けて

## 分野ごとにグループ内の事業を明確に分類し、具体的戦略を立案・執行します。

グループの事業構造を「部分最適」から「全体最適」を追求するグループへ転換するため、「事業ユニット」と「戦略セグメント」「機能セグメント」を導入いたします。

グループ内の企業群を事業領域ごとにまとめたものを「事業ユニット」とし、これら一つひとつを事業体としてとらえていきます。それぞれの事業ユニットは、ユニット内会社同士の相乗効果

を追求し、競争力を強化し、各ユニットの事業価値の最大化をはかり、統一的な戦略のもとに事業を推進します。

また、「戦略セグメント」は複数の事業ユニットを鳥瞰し、セグメントレベルでの事業戦略を立案、実行します。戦略セグメントと同時に、すべての事業ユニットを包括し、グループ横断的な生産・販売を統括する機能として、「機能セグメント」を設置します。

	事業ユニット	事業内容	主な関係会社
戦略セグメント 水産セグメント	漁業・養殖ユニット	グループ内の資産をフルに活用し、国内外で漁業・養殖生産を行う。	マルハ、大洋A&Fの一部他
	北米ユニット	北米の水産資源を生かして、原料魚の漁獲、すりみやカニ棒他への加工ならびに世界市場向け販売を行う。	マルハ、Westward Seafoods Inc. 他
	水産商事ユニット	強力な海外ネットワークを通じ、世界の魚を調達し国内外市場に販売する。	マルハ、大洋A&Fの一部他
	荷受ユニット	生産者と消費者の間において、国内外から集まる大量の水産物を適正に評価し、迅速に流通させる。	大部魚類、神港魚類 他
	戦略販売ユニット	水産加工品を中心に、顧客の業態に即した販売を行う。	マルハ、琉球大洋の一部、新洋商事 他
戦略セグメント 食品セグメント	業務食品ユニット	水産ならびに農・畜産品原料の冷凍加工品を中心に、業務ルートに向けて商品提案・販売を行う。	マルハ、Kingfisher Holdings Limited 他
	市販食品ユニット	缶詰・フィッシュハムソーセージからちくわ・カップデザートまで幅広い商品を、量販店など市販ルートに向けて提案・販売する。	マルハ、テイジー食品工業、青森罐詰 他
	砂糖ユニット	砂糖の製造販売をはじめ、乳果オリゴ糖など糖質バイオテクノロジーを生かした商品の開発・販売を行う。	塩水港精糖、パールエース 他
	化成品ユニット	魚由来の原料を中心に、調味料・健康食品から医薬品・化粧品原料の製造・販売を行う。	マルハ、大洋A&Fの一部他
保管物流セグメント	保管物流ユニット	冷蔵倉庫を中心に、保管から加工・配送までさまざまな顧客ニーズに対応する総合物流サービスを行う。	マルハ物流ネット、新日本コールド 他
その他		レストラン事業など、新しい価値の創造を戦略的に行う。	マルハ、マルハレストランシステムズ 他
機能セグメント	生産セグメント 販売セグメント	すべてのユニットを包括	それぞれのユニットに帰属する生産設備、ノウハウ、人的資源、販売拠点をグループ全体最適の観点から強化していく。  (全社)

## <株式会社 マルハグループ本社>の機能と体制について

マルハグループ本社は、マルハグループビジョンのもとにグループ戦略を企画・実行し、事業環境に適合したグループ経営を推進します。

具体的には、グループ経営戦略の企画・立案を行う「経営企画

本部」、事業会社の経営管理ならびに関連業務を行う「経営管理本部」、そして法務面・環境面など企業の社会的責任への対応を担当する「コンプライアンス統括部」から構成されます。

設立の目的

経営と事業を分離し、グループ経営に特化させグループ全体最適をめざす戦略の立案を行う

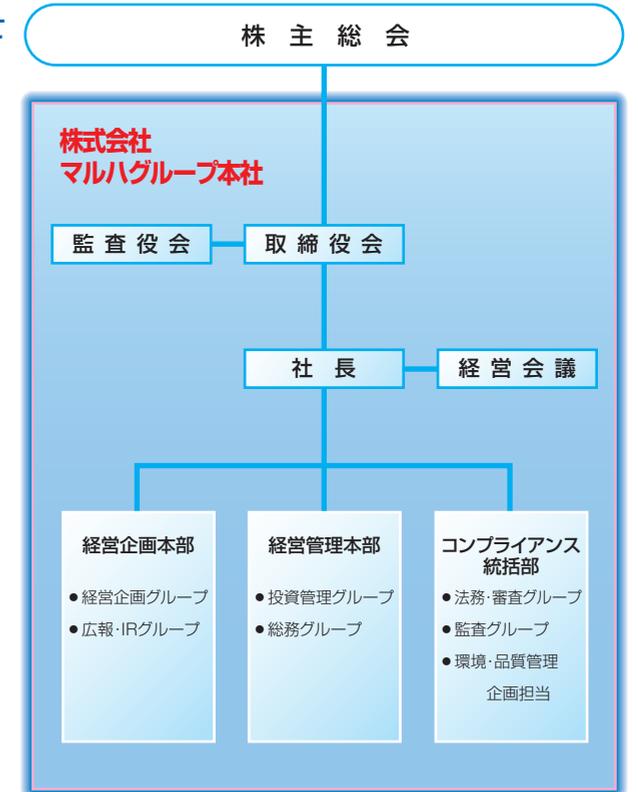
具体的には

- 責任と権限を明確化したグループガバナンス体制の強化
- 意思決定の迅速化による戦略機能の強化
- グループ内フラット化による事業選別・事業再編成の促進
- 経営資源の一元管理とシンプルな業務運営体制の構築

グループ全体の「経営」に特化し、グループ全体価値の最大化をめざします。

### マルハグループ本社の役割

- グループ全体の経営ビジョンの策定  
単独企業ではなし得ないダイナミックかつ創造的な戦略の推進
- 経営管理機能の一元管理  
効率的な運営体制の構築と経営資源の最適配置



漁業から水産物の買付、保管・物流、加工販売まで国内外に185社の関係会社を持つマルハグループは、そのネットワークを駆使して世界一の水産物消費国である日本の食生活を支えています。

### 神港魚類株式会社

神戸エリアを中心に「魚」の卸売業を営む、日本有数の荷受会社です。東部支社、明石支社を擁し、関西地区での魚の安定供給に努めています。

日本の周辺で獲れる「近海モノ」と呼ばれる魚介類、世界の海からやってくる魚介類、さらに塩干魚介類や魚を原料とした加工製品まで、マルハグループのコア・アイデンティティーである「魚」すべての集荷・販売を行っており、マルハグループ荷受事業の中核を担っています。



#### 会社概要

設立年月日 1948年  
 本社 兵庫県神戸市兵庫区中之島1丁目1番1号  
 神戸市中央卸売市場本場内  
 資本金 8億9,100万円  
 売上高 60,140百万円(2004年3月期)  
 業種 水産物卸売業  
 代表者 取締役社長 野沢 三郎  
 大阪証券取引所第二部上場企業 証券コード：9988

### デージー食品工業株式会社

大自然の恵み、アスパラガスやスイートコーンの缶詰を主軸として創業しました。その後農産物はもちろん、水産物も扱うようになり、半世紀にわたって確かな缶詰製造技術を培ってきました。マルハグループ缶詰事業における重要な生産拠点です。

食の多様なニーズに応えるため、かに・ほたて・さんま缶詰などのマルハブランド商品はもとより、「ふらのブランド」商品のシリーズ化をすすめるなど、商品ラインアップの充実をはかっています。



#### 会社概要

設立年月日 1952年  
 本社 北海道富良野市字中五区4245番地  
 資本金 5,000万円  
 売上高 4,544百万円(2004年3月期)  
 業種 食品加工・販売業  
 代表者 取締役社長 長谷川 周作

### 新日本コールド株式会社

主に冷凍冷蔵倉庫業を営み、保管・加工・配送という一貫した業務とこれら業務に付帯する情報支援を行っています。関東エリア中心に16の物流センターを擁し、収容能力は首都圏最大スケールの271千トン誇ります。

2005年4月には、保管物流事業持株会社「株式会社マルハ物流ネット」(旧株式会社マルハコールドシステムズ)のもと、マルハグループ冷蔵会社の統合が予定されており、その主要会社としてさらなる高い品質のサービスを提供してまいります。



#### 会社概要

設立年月日 1988年  
 本社 東京都中央区豊海町14-17  
 資本金 4億円  
 売上高 10,072百万円(2004年3月期)  
 業種 冷蔵保管物流業  
 代表者 取締役社長 小関 具賢

### 舟山興業有限公司

舟山興業は中国国有企業との合弁で設立されました。以西鮮魚、遠洋イカ釣などの漁業・運搬事業、イカ・エビ・すりみなどの水産加工事業、冷凍魚などの商事事業をはじめ、冷蔵倉庫事業、造船業など、総合的な事業展開をしています。

水産加工品においては、自社漁業から加工までの一貫した生産体制と世界レベルの品質基準を誇り、マルハ加工食品の重要な生産拠点となっています。また、ヨーロッパやアメリカ、中国国内に向けても販売しています。



#### 会社概要

設立年月日 1994年  
 本社 中国浙江省舟山市  
 資本金 1億2,000万元  
 売上高 8,206百万円(1元=12.97円)(2003年12月期)  
 業種 漁業・水産加工業  
 代表者 馬 永鈞 総経理

## 開発Story:日本の食文化に挑戦!?

# 冷凍食品『骨までおいしい魚』

カラダに良いとわかっていても、骨が面倒などの理由でついつい敬遠されがちな魚。骨も、頭も、尾も、まるごと全部を食べられる魚、あったらいいなと思ったことはありませんか？ マルハは今春、そんな夢の魚の加工技術開発と商品化に成功しました。構想から10年、その開発背景をご紹介します。



あじ・さんまの開き、さばの塩焼きなど8種類。

調理例

### 開発までの道のり

「骨をやわらかくして、魚をまるごと食べる」というアイデアは、もともと10年前からマルハにありました。しかし、基礎研究は行っていたものの、なかなか商品化にはいたりませんでした。骨をやわらかくするには、家庭で使う圧力鍋の原理を基本的に応用し、骨に圧力と熱を加えて骨を構成するリンやカルシウムなどの分子間の結合を壊します。当初、どの魚も同じような味になってしまったりして、商品化は非常に困難でした。

### 転機となった出会い

しかし、2002年、佐賀県唐津市にある宮島醤油株式会社との出会いにより、商品化への可能性が一挙に広がりました。もともとしょう油メーカーの宮島醤油には、しょう油を作る過程での、大豆の味を壊さずに大豆に圧

力を加えてやわらかくするノウハウがあり、マルハはこの技術に着目、「魚にも応用できるのでは」と考えたのです。以来、マルハと宮島醤油は共同で、魚の加工技術・味付けなど多方面で開発を行ってきた結果、今春いよいよ「骨までおいしい魚」の商品化が実現しました。

加工方法のポイントは、魚を加圧加熱する間、魚本来のうまみや栄養分を逃さないこと。魚のおいしさを最大限に引き出すため、魚の大きさ、身の厚さ、種類によって圧力の値や時間をかえています。マルハと宮島醤油では現在、製造技術について共同で特許を申請しています。

商品の生産は、現在、宮島醤油の工場のみで行っています。将来的には、タイや中国にあるマルハ海外工場に生産ラインを増設して、本格的な生産を開始する予定です。販売は業務用からはじまり、6月からは市販品の販売を開始しました。初年度売上10億円、3年後には50

## 「骨までおいしい魚」ここがスゴイ！

### おいしさ

- ・ 魚仙沼のさんま、近海のアジなどの原料を使用しています。
- ・ 家庭で調理した味と食感(身質)をめざしました。太い骨は口に入ると、ほとんどあるのがわからないくらいにやわらかい食感になっています。
- ・ 骨のまわりの身こそ実はおいしいのです。

### 健康

- ・ 添加物は一切使用していないので安全です。
- ・ 骨まで食べられるので天然カルシウムが豊富です。(生魚を調理した場合と比較し、可食部分のカルシウム含有量は3~10倍になります。/五訂食品成分表より)

### 便利

- ・ 完全調理済みなので、湯せん又は電子レンジで2~3分温めるだけで、簡単に食べられます。
- ・ 骨などの生ゴミが出ません。

億円をめざしています。

### 新たな食文化創造へ

今まで日本には、小魚は別にしても、魚を骨まで食べるという習慣はありませんでした。それだけに、この商品が今後どれだけ消費者のみなさまに受け入れられるかは、まだまだ未知数です。しかし、健康志向の高まりのなかで「骨までおいしい魚」に非常に多くの関心が寄せられています。今年1月に行った商品開発の記者発表以来、消費者の方をはじめ、業界内外さまざまな方面から数多くのお問い合わせをいただくなど、これからの展開が大いに注目されています。



マルハ(株)冷凍食品事業部 中川さん

### 開発担当者が語る 開発のポイント、苦労した点

『確実に骨をやわらかくしつつ、ある程度は骨の感触を残すというバランスをとるのが難しかったです。また、加圧のときに付きやすい独特のおいしさをなくし、魚本来の個々の味をきちんと残すのにとっても苦労しました。魚の良さが見直されるきっかけの一つになればよいと思っています!』

新たな食文化創造のさきがけとなりうるのか、10年後には、魚の骨はムシャムシャ食べるのが当たり前になっているかもしれません。魚の需要拡大という期待と大役を担った「骨までおいしい魚」、エビやカニを含めたさまざまな魚介や食材に応用可能な技術のため、今後はさらに新アイテムを追加していく予定です。

「骨までおいしい魚」はマルハのオンラインショップ「うまいものマルハ便」でご購入いただけます。ぜひご利用ください。



「うまいものマルハ便」アドレス <http://www.emaruha.com/>

# マルハ株式会社 / 連結決算 HIGHLIGHTS



	第56期 (2000年3月期)	第57期 (2001年3月期)	第58期 (2002年3月期)	第59期 (2003年3月期)	第60期 (2004年3月期)
売上高 (百万円)	941,329	891,117	841,017	804,174	757,893
営業利益 (百万円)	16,749	10,896	8,088	14,200	11,792
売上高営業利益率 (%)	1.8	1.2	1.0	1.8	1.6
経常利益 (百万円)	13,674	10,449	7,913	13,710	9,125
売上高経常利益率 (%)	1.5	1.2	0.9	1.7	1.2
当期純利益 (百万円)	2,227	8,320	2,615	1,669	1,930
売上高当期純利益率 (%)	0.2	0.9	0.3	0.2	0.3

# マルハ株式会社 / 連結決算の概況

## ■ 全般的概況

当期におけるわが国の経済は、企業収益の改善を背景として、設備投資が増加し、また、米国・中国向けを中心として輸出が増加するなど景気の回復傾向が見られました。しかしながら、個人消費は、人件費の抑制傾向および雇用情勢の不透明感から、回復するには至りませんでした。

水産・食品業界におきましても、低価格化傾向は改善せず、厳しい事業環境が続きました。

このような状況の中、当社グループでは、売上高の確保を重要課題として取り組んでまいりましたが、水産物の価格の下落

に歯止めがかからず、また、取扱い数量につきましても減少を余儀なくされ、売上高は757,893百万円と前期に比べ46,281百万円(△5.8%)の減収となり、営業利益は11,792百万円と前期に比べ2,408百万円(△17.0%)、経常利益は9,125百万円と前期に比べ4,585百万円(△33.4%)の減益となりました。当期純利益につきましては、投資有価証券売却益、貸倒引当金の計上などにより、1,930百万円と前期に比べ261百万円(+15.6%)の増益となりました。

## ■ 各事業の概況

### 水産事業

魚価の下落、取扱い数量の減少により、売上高は549,224百万円と前期に比べ42,527百万円(△7.2%)の大幅な減収となり、漁業部門の漁獲不振による大幅な減益もあり、営業利益は7,064百万円と前期に比べ3,646百万円(△34.0%)の減益となりました。

### 加工食品事業

売上高は131,962百万円と前期に比べ3,336百万円(△2.5%)の若干の減収となりましたが、利益商材の取扱いに注力し、また、生産原価の削減などにより、営業利益は4,604百万円と前期に比べ1,448百万円(+45.9%)の増益となりました。

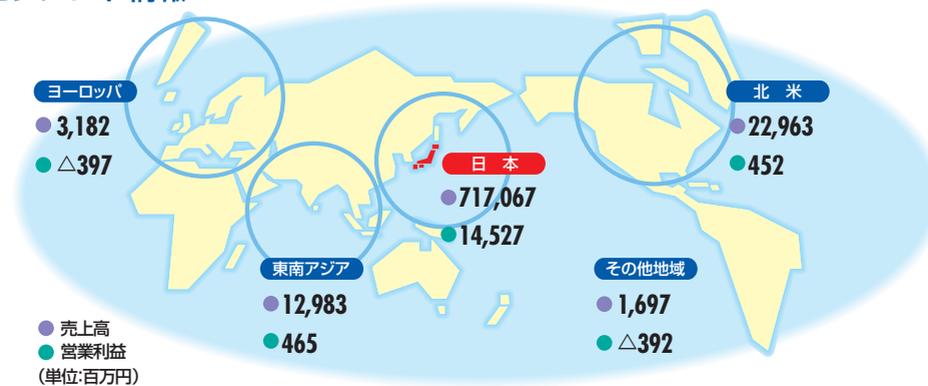
### 保管・物流事業

在庫圧縮の動きの中、売上高は22,108百万円と概ね前期並を確保しましたが、保管事業の競争激化により、営業利益は1,615百万円と前期に比べ864百万円(△34.9%)の減益となりました。

### その他の事業

農畜産事業の回復があり、売上高は54,598百万円と前期に比べ364百万円(+0.7%)の増収となり、営業利益は1,495百万円と前期に比べ642百万円(+75.3%)の増益となりました。

## ■ 所在地別セグメント情報



# マルハ株式会社／連結決算 財務諸表

## POINT ①

### <資産の部>

たな卸資産の減少（△4,746百万円）や売上債権残高の減少（△3,959百万円）などにより、流動資産は前期比13,636百万円の減少となりました。また、株式市況の回復により投資有価証券評価差額が増加し、繰延税金資産が減少（△3,727百万円）するなどして、固定資産は前期比6,355百万円減少し、資産合計は前期比19,957百万円の減少となりました。

## POINT ②

### <負債の部>

当期末の短期および長期借入金の合計額は308,027百万円で、前期比25,029百万円の圧縮となりました。

連結貸借対照表（要約）

（単位：百万円）

科目		当期 (2004年3月31日現在)	前期 (2003年3月31日現在)
<b>① 資産の部</b>			
流動資産	175,424	189,060	
固定資産	264,157	270,512	
有形固定資産	146,413	148,097	
無形固定資産	2,615	2,753	
投資その他の資産	115,128	119,661	
繰延資産	61	26	
<b>資産合計</b>	<b>439,642</b>	<b>459,599</b>	
<b>② 負債の部</b>			
流動負債	254,300	285,230	
固定負債	128,694	124,472	
<b>負債合計</b>	<b>382,994</b>	<b>409,702</b>	
<b>少数株主持分</b>			
少数株主持分	20,202	18,897	
<b>資本の部</b>			
資本金	15,000	15,000	
資本剰余金	160	110	
利益剰余金	22,129	21,091	
その他有価証券評価差額金	5,368	△696	
為替換算調整勘定	△5,974	△4,082	
自己株式	△238	△422	
<b>資本合計</b>	<b>36,445</b>	<b>30,999</b>	
<b>負債、少数株主持分及び資本合計</b>	<b>439,642</b>	<b>459,599</b>	

連結剰余金計算書（要約）

（単位：百万円）

科目	当期 (2003年4月1日から 2004年3月31日まで)	前期 (2002年4月1日から 2003年3月31日まで)
<b>資本剰余金の部</b>		
資本剰余金期首残高	110	110
資本剰余金増加高	49	—
資本剰余金期末残高	160	110
<b>利益剰余金の部</b>		
利益剰余金期首残高	21,091	20,379
利益剰余金増加高	1,991	1,669
利益剰余金減少高	954	957
利益剰余金期末残高	22,129	21,091

連結損益計算書（要約）

（単位：百万円）

科目	当期 (2003年4月1日から 2004年3月31日まで)	前期 (2002年4月1日から 2003年3月31日まで)
売上高	757,893	804,174
売上原価	675,667	717,491
<b>売上総利益</b>	<b>82,226</b>	<b>86,682</b>
販売費及び一般管理費	70,433	72,482
<b>営業利益</b>	<b>11,792</b>	<b>14,200</b>
営業外収益	3,957	6,424
営業外費用	6,624	6,913
<b>経常利益</b>	<b>9,125</b>	<b>13,710</b>
特別利益	5,052	2,724
特別損失	9,878	13,296
税金等調整前当期純利益	4,299	3,138
法人税、住民税及び事業税	2,403	3,019
法人税等調整額	52	△2,542
少数株主利益	△86	992
<b>当期純利益</b>	<b>1,930</b>	<b>1,669</b>

連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

（単位：百万円）

科目	当期 (2003年4月1日から 2004年3月31日まで)	前期 (2002年4月1日から 2003年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	18,673	21,232
投資活動によるキャッシュ・フロー	8,755	△8,582
財務活動によるキャッシュ・フロー	△29,904	△12,970
現金及び現金同等物に係る換算差額	△340	△240
現金及び現金同等物の減少額	△2,816	△560
現金及び現金同等物の期首残高	21,285	21,845
新規連結による現金及び現金同等物増加額	201	—
<b>現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>18,669</b>	<b>21,285</b>

## POINT ③

### <特別利益・特別損失>

特別利益の総額は5,052百万円と前期に比べ2,328百万円の増益で、これは主に金融株を中心とした投資有価証券の売却によるものです。一方、特別損失の総額は9,878百万円で、主な内訳は貸倒引当金繰入額4,170百万円、割増退職金1,403百万円などです。

## POINT ④

### <キャッシュ・フロー計算書>

当期の営業活動の結果得られた資金は、売上債権およびたな卸資産の減少が前期に比べ大幅に減少したことなどにより、前期比2,559百万円減少しました。投資活動の結果得られた資金は、主に投資有価証券の売却による収入が増加したことなどにより、前期比17,337百万円増加しました。財務活動の結果使用した資金は29,904百万円となり、前期に引き続き借入金の削減に努めました。

## マルハ株式会社／単独決算 財務諸表

### 貸借対照表 (要約)

(単位：百万円)

科目	当期 (2004年3月31日現在)	前期 (2003年3月31日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産	87,678	83,846
固定資産	132,941	141,698
有形固定資産	26,140	25,620
無形固定資産	858	844
投資その他の資産	105,942	115,232
<b>資産合計</b>	<b>220,619</b>	<b>225,544</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債	129,958	144,701
固定負債	65,208	57,665
<b>負債合計</b>	<b>195,166</b>	<b>202,366</b>
<b>資本の部</b>		
資本金	15,000	15,000
資本剰余金	110	124
利益剰余金	7,852	8,399
その他有価証券評価差額金	2,494	△312
自己株式	△5	△33
<b>資本合計</b>	<b>25,452</b>	<b>23,177</b>
<b>負債・資本合計</b>	<b>220,619</b>	<b>225,544</b>

### 利益処分

(単位：百万円)

科目	当期
当期末処分利益	2,847
任意積立金取崩額	36
圧縮記帳積立金取崩額	36
計	2,884
これを次のとおり処分いたしました。	
利益処分額	989
利益準備金	90
株主配当金	899
次期繰越利益	1,894

### 損益計算書 (要約)

(単位：百万円)

科目	当期 (2003年4月1日から 2004年3月31日まで)	前期 (2002年4月1日から 2003年3月31日まで)
売上高	274,414	287,705
売上原価	236,231	251,104
<b>売上総利益</b>	<b>38,183</b>	<b>36,601</b>
販売費及び一般管理費	32,281	33,625
<b>営業利益</b>	<b>5,901</b>	<b>2,975</b>
営業外収益	2,975	3,735
営業外費用	3,727	3,750
<b>経常利益</b>	<b>5,149</b>	<b>2,960</b>
特別利益	3,078	651
特別損失	7,429	10,065
税引前当期純利益	798	△6,453
法人税、住民税及び事業税	271	50
未払法人税等戻入額	—	270
法人税等調整額	161	△1,909
<b>当期純利益</b>	<b>365</b>	<b>△4,323</b>
前期繰越利益	2,495	7,789
自己株処分差損	12	—
<b>当期末処分利益</b>	<b>2,847</b>	<b>3,466</b>

## POINT

### <参考：マルハ株式会社>

当期のマルハ株式会社の営業成績は、売上高274,414百万円となり、前期に比べ約5%、13,291百万円の減少となりました。経常利益は、徹底した費用削減や事業効率向上のための諸施策が功を奏し、前期を2,189百万円上回る5,149百万円を計上することができました。当期純利益については、特別利益として投資有価証券売却益など3,078百万円を計上したものの、特別損失として貸倒引当金繰入額、投資有価証券評価損など7,429百万円を計上した結果、365百万円を計上するにとどまりました。

マルハ株式会社は、決算公告に代えて貸借対照表および損益計算書をホームページ (<http://www.maruha.co.jp>) に掲載しております。

## 会社の概況

### ●会社概要 (2004年4月1日現在)

会社名 株式会社マルハグループ本社  
 本社 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-1-2  
 資本金 150億円  
 従業員数 47名  
 事業内容 水産物卸売業等を主として行う子会社の経営管理等

### ●マルハグループ本社 役員 (2004年6月29日現在)

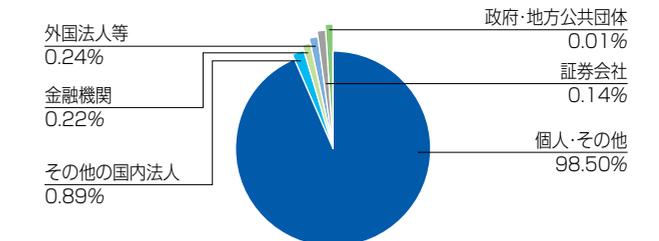
取締役社長(代表取締役)	五十嵐 勇 二
取締役副社長(代表取締役)	高山 稔
常務取締役	中部 謙
常務取締役	大堀 隆
取締役	川井 一良
取締役	守 栄一
取締役	加茂 秀樹
取締役	伊藤 滋
取締役(非常勤)	隅山 大作
社外取締役(非常勤)	長野 彪士
常任監査役	河田 清
監査役(非常勤)	鶴見 肇
監査役(非常勤)	八幡 秀昭
監査役(非常勤)	中前 峻

## 株式の状況 (2004年4月1日現在)

- 発行する株式の総数 普通株式 1,200,000,000株
- 発行済株式の総数 普通株式 300,000,000株
- 株主数 32,813名
- 大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数	議決権比率
大東通商株式会社	49,783,411株	16.72%
株式会社みずほコーポレート銀行	13,000,000	4.37
農林中央金庫	10,000,000	3.36
日本生命保険相互会社	9,414,000	3.16
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	7,815,000	2.63
林兼産業株式会社	7,002,000	2.35
株式会社山口銀行	6,000,000	2.02

### ●所有者別株主数分布状況



### ●所有数別株主数分布状況

